



総合教育センターだより

Be Connected



センターマスコット センタ君

平成24年12月14日(金)
第45号(通算第128号)
京都府総合教育センター
TEL: 075-612-3266



コミュニケーション・マネジメント能力を高める



総合教育センターでは研修講座を、①「教科」、②「領域等」、③「コミュニケーション能力」、④「チームマネジメント能力」の4分野で実施しています。

教職員にとって、子ども・保護者・同僚をはじめ地域関係者等と良好なつながりを築くことや、学校組織の一員として個々の力を生かし課題に対応していくことは極めて大切です。そのようなスキルの向上を図る「コミュニケーション能力」、「チームマネジメント能力」の講座をご活用ください。

コミュニケーション能力

さまざまな価値観を持つ人々と人間関係を結び、さらには課題について考え合い、合意形成できる能力の向上を図ります。



(指導に生かすコミュニケーション講座)

- ・コミュニケーション講座
- ・コーチング実践演習講座
- ・プレゼンテーション能力「話し方」講座
- ・授業に生かせるコーチング講座 等

チームマネジメント能力

学校運営の改善のためには、教職員一人一人が協働しながら個々の得意分野を生かして学校経営に参画することが不可欠です。そのために必要な能力や方策について学びます。



(企業体験講座Ⅲ)

- ・教育法規演習講座
- ・危機管理講座
- ・地域とともに歩む「学校内外環境分析」講座
- ・企業体験講座
- ・チームマネジメント「課題の分析・目標設定」演習講座 等

講座報告

特別支援教育<発展>「二次的障害の支援」講座 —発達障害のある子どもの 不登校・ひきこもり— (10月19日 総合教育センター)

発達障害のある不登校・ひきこもりの子どもについての理解を進めるために、アスペルガー障害の当事者とその支援者から話を聞きました。当事者からは、家族の中で常に疎外感を感じていたことなど体験者ならではの話を、支援者からは出会いから現在に至るまでの支援についての話を聞くことができました。

また、鳥取大学の井上雅彦教授より、発達障害のある不登校の子どもについて、生活の様子を含めた実態把握の重要性について講義を受けました。



初任者研修

「授業参観」、「外国語活動」講座等 (9・10・11月 総合教育センター等)



(「授業参観」講座)

今年度の初任者研修講座も、あと2回の講座を残すのみとなりました。秋には、「コミュニケーション」講座、「防災」講座、また、写真の「授業参観」講座など各校種、職種、教科ごとの

専門性を高める講座を実施しました。

小学校「外国語活動」講座では、外国語活動の基本理念等について学ぶとともに、教材「Hi friends!」の演習を通して、具体的な授業の組み立て方について学びました。

講座報告

フォーカシングを学ぶ

教育相談<上級>講座II-面接法(フォーカシング)に学ぶ[領域③]-

関西大学 臨床心理専門職大学院 池見 陽 教授 (11月22日 総合教育センター)

フォーカシングとは、来談者中心療法を確立したC・ロジャースの共同研究者であるE・ジェンドリンが考案した心理療法の技法です。



受講者との質疑応答から

Q:相談の中で「どうしたらいいの?」と答えを求められた場合はどう対応したらよいか。

A:ハッキリとわかることがあれば、ハッキリと言葉で答えればよい。しかし、人が悩んでいることの多くは答えのない事柄ではないだろうか。「ああすれば良い」、「こうすれば良い」とか言いたくなることもあるだろうが、意外にそれが外れていることも多い。だからこそ、一緒に感じ、一緒に考えてあげるスタンスが大切である。

感想

・子どもが表現した言葉だけでその子を理解し、わかったつもりでいることが多いように思う。そうではなく、言葉に含みきれないものを感じることで、フェルトセンスを大事にし、子どもの心のメッセージを感じなければならぬと思いました。

・問いかけの方法や声をかけるタイミングについて、体験を通して学ぶことができました。

・フォーカシングによって、人の深いつながりが持てるようになり、悩みを減らすことを体験的に学びました。

講義から

たとえば、人が「不安」と言ったとき、「不安」という言葉から漏れてくる気持ちがある。モヤモヤしたもの、しっくりいかないと感じるなど。これらは体の「感じ」に現れる心のメッセージであり、この感じのことをフェルトセンスという。

フォーカシングは、このフェルトセンスに焦点づけ(フォーカシング)をして、フェルトセンスが発するメッセージをつかむことで問題解決へと導く技法である。

フェルトセンスをつかむためには、言葉以外のもの、たとえば「色」や「絵」、「漢字一文字」で気持ちを表現してみるのもよい。

「心の整理ノート」「心の天気」などは、子どもたちの心のメッセージを聴くのに役に立つ方法にもなる。



人材育成支援室より
お薦めの一冊



「人間の絆」 モーム 岩波書店

もともと、人に本を薦めるのはおこがましいことだと思っています。〔本〕とは、心のありようによって、また心のありようを求めて、必然的に、ある時は偶然に出会うものだと思うからです。

それはさておき、最近は小説の初読と再読を繰り返しています。例えば村上春樹を読めば、次は夏目漱石を読み返すといったように…。

何十年も前に読んだものを繰り返して読んでみると、往時の自身を確認できるだけでなく、今を見つめるよすがともなります。

ところで、先日、高校生の時に読んだモームの「人間の絆」を再読しました。(N.Y)

人間の絆

モーム作/行方昭夫訳



※ 254-6
岩波文庫